1.研修プログラムの名称

腎臓内科研修プログラム

2.研修概要（理念・特徴）

腎臓内科は、西東京地区における腎疾患の拠点病院として、特に慢性腎疾患（chronic kidney disease）の適確な診断と治療を目指している。また全ての患者様に対して標準化された治療を提供するために疾患単位で治療プロトコルを作製し、積極的に導入している。さらに、近年急速に増加している腎不全や維持透析患者では感染症や悪性腫瘍、脳・心血管疾患をはじめとした様々な疾病を合併する頻度が高いが、内科医としての基本と腎臓専門医としての見地に立脚して、これら疾病の診断と治療にあたっている。そして人格、知識および技術においてバランスのとれた臨床研修医の育成に力を注いでいる。

3.一般目標

内科学全般に関わる知識・技術の習得に加え、腎臓の構造・機能を理解した上で、腎疾患を診療するために必要な minimal requirement を習得する。

4.具体的目標

- 1) 経験すべき診察法・検査・手技
 1. 胸部の診察ができ、記載できる
 2. 腹部の診察ができ、記載できる
 3. 一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む）の適応が判断でき、結果の解釈ができる
 4. 血算・白血球分画の適応が判断でき、結果の解釈ができる
 5. 動脈血ガス分析を自ら実施し、結果を解釈できる
 6. 血液生化学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる・簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）
 7. 血液免疫血清学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる（免疫細胞検査を含む）
 8. 超音波検査を自ら実施し、結果を解釈できる
 9. 単純X線検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
 10. 注射法（点滴、静脈確保）を実施できる
 11. 採血法（静脈血、動脈血）を実施できる
 - 2) 経験すべき症状・病態・疾患
 12. 体重減少、体重増加を診察し治療に参加できる
 13. 浮腫を診察し治療に参加できる
 14. 血尿を診察し治療に参加できる
 15. 尿量異常を診察し治療に参加できる
 16. 貧血（鉄欠乏貧血、二次性貧血）を診察し、治療に参加できる
 17. 高血圧症（本態性、二次性高血圧症）を診察し、治療に参加できる
 18. 腎不全（急性・慢性腎不全、透析）を診察し、治療に参加できる
 19. 原発性糸球体疾患（急性・慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群）を診察し、治療に参加できる
 20. 全身性疾患による腎障害（糖尿病性腎症）を診察し、治療に参加できる
 - 3) 全科共通項目
 21. 診療録（退院サマリーを含む）をPOSに従って記載し管理できる
 22. 処方箋、指示箋を作成し管理できる
 23. 診断書、死体検案書、紹介状、その他の証明書を作成し管理できる
- 保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる

5.指導体制・方略

- 1) 指導医—医局員—研修医からなる主治医団を結成し、各症例の診療にあたる。基本的には病棟勤務とするが、人工透析センターおよび腎臓内科外来でも上級医の指導を受けることができる。
- 2) 希望者は週1回火曜日午後にNSTのミーティングと回診に参加することができる。

6.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
8:00～			朝カンファレンス			
9:00～			病棟症例検討会			
11:00～			教授回診			
14:00～		腎生検、NST	腎生検	腎生検		
16:00～			透析センター 症例検討会			
18:00～		院内研修会				
18:30～	腎生検症例検討会（2ヶ月に1回）					

7.研修活動

NST（栄養サポートチーム）：栄養の問題がある入院患者において、栄養士と医師、看護師、薬剤師などを中心とした多職種チームで栄養管理のサポートを行っている。

8.評価

- 1) 自己評価
患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する
EPOCを用いて自己評価を行う
研修事後レポートを用いて自己評価を行う
- 2) 指導医による評価
EPOCを用いて評価する
研修事後レポートより評価する
他者評価表を用いて評価する
研修終了時に試験を行い、振り返りをおこなう
- 3) コメディカルによる評価
EPOC又は評価表を用いて評価する
他者評価表を用いて評価する
- 4) 研修医による評価
EPOCを用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する
評価表を用いて指導医並びにコメディカルを評価する

9.その他特記事項

今後、非腎臓専門医が慢性腎疾患を診察する機会が増加することが予想されます。特に慢性腎不全や維持透析患者に対する輸液、薬剤（造影剤も含む）に関しては、多くの注意点があります。この点についても十分に学習してもらいたいと思っています。